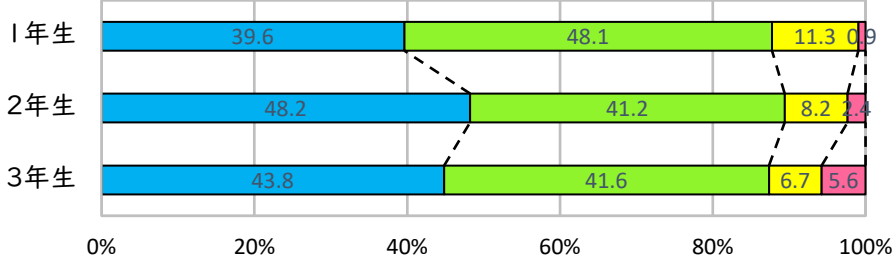


令和 4 年 7 月  
**【生徒授業】学校評価アンケート結果** 《国語》

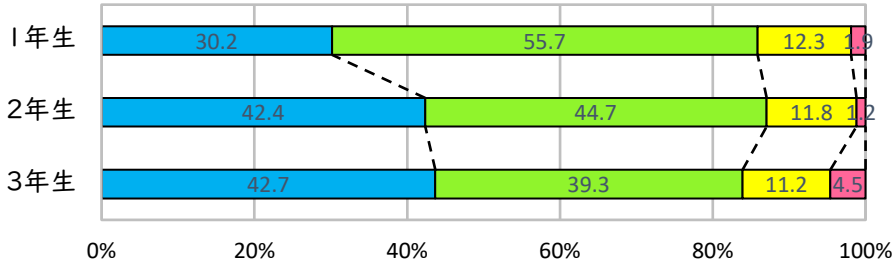
調布市立第八中学校

1 そう思う 2 ややそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない

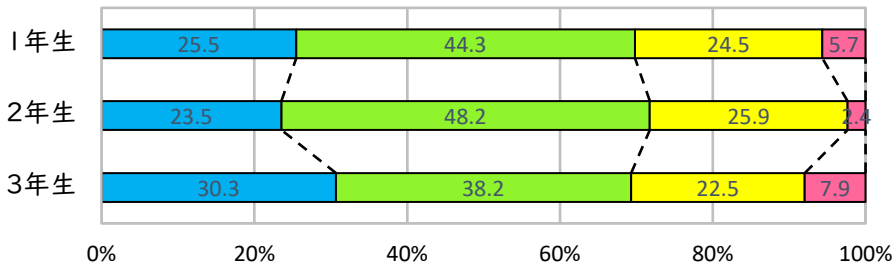
【国1】国語の授業では、授業の始めに1時間の流れを把握することができ、学習しやすい。



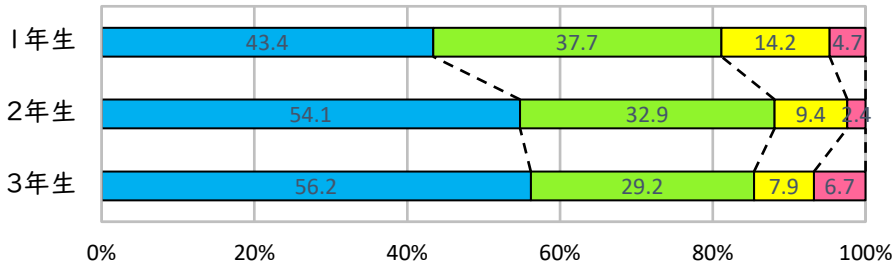
【国2】国語の授業は、分からないことや疑問に感じたことを振り返るための手立てがある。



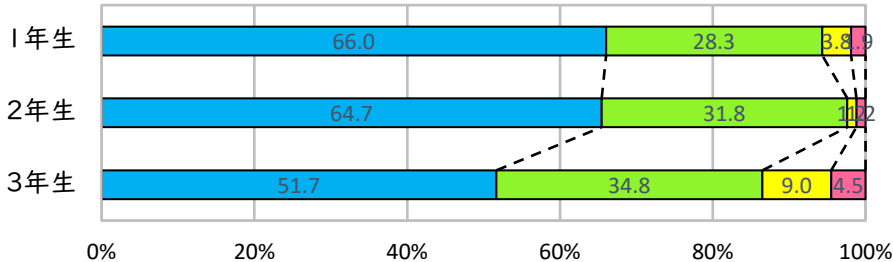
【国3】国語の授業は、新しい疑問や興味が湧き、自ら学習したいと感じる。



【国4】国語の授業では、話し合いや発表する場面で、安心して自分の考えや意見を言える。



【国5】国語の授業では、状況に応じた教具(画像・動画・プリント・道具など)が利用されていて、学習しやすい。



《成果》

ほとんどの項目において「そう思う」「ややそう思う」が80%を超えている。毎時における目標の掲示や話し合い活動などの効果である。【国4】で、顕著に成果が表れている。これは、授業の工夫の成果と考えられる。

《課題》

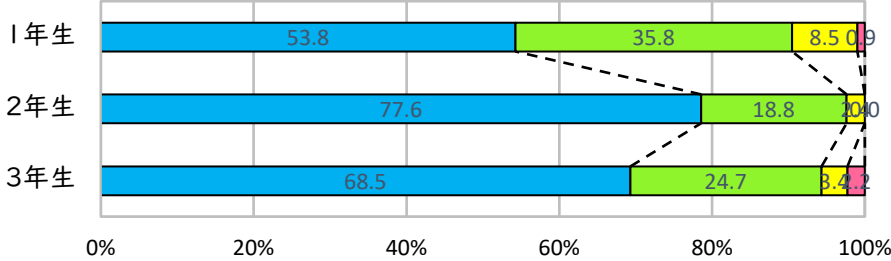
【国3】の数値が他と比べて低い。教科の特性として、「新しい疑問」が湧きにくいのが、興味をもてるような課題を設け、主体的に考えるような授業展開の工夫を行う。

《今後の取組》

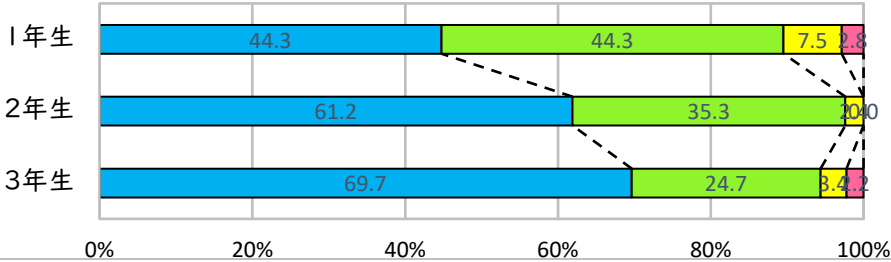
「主体的な学習」「対話による課題解決」を取り入れながら、ICTの効果的な利用も継続していく。一方「書くこと」「話すこと」といった従来の基本的な学習もおろそかにせず、様々な学習の礎となる言語学習の構築を図る。



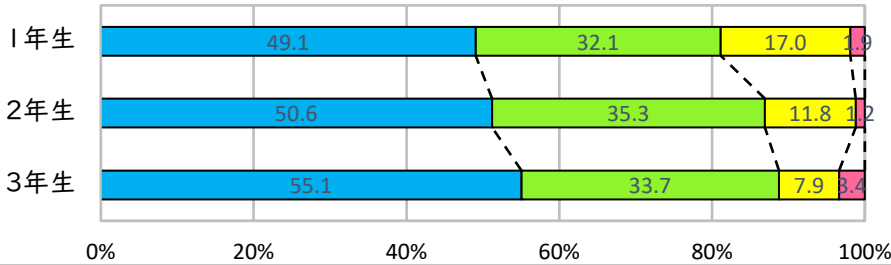
【社1】社会の授業では、授業の始めに1時間の流れを把握することができ、学習しやすい。



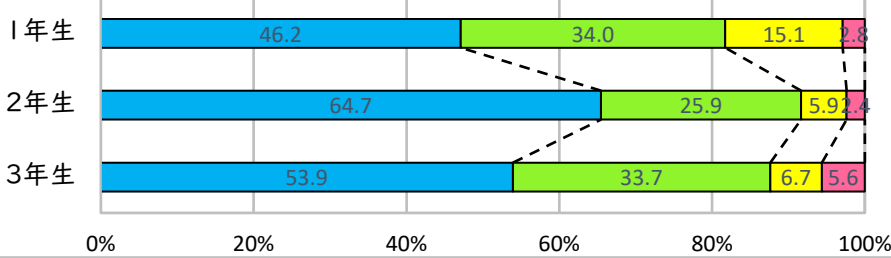
【社2】社会の授業は、分からないことや疑問に感じたことを振り返るための手立てがある。



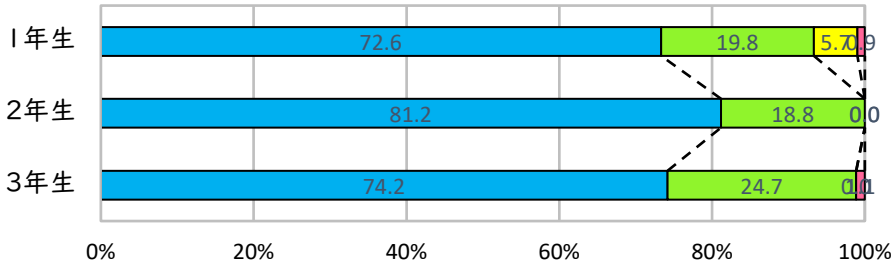
【社3】社会の授業は、新しい疑問や興味が沸き、自ら学習したいと感じる。



【社4】社会の授業では、話し合いや発表する場面で、安心して自分の考えや意見を言える。



【社5】社会の授業では、状況に応じた教具(画像・動画・プリント・道具など)が利用されていて、学習しやすい。



《成果》

全体的に肯定的な意見が8割を超えている。特に【社5】の項目については、毎時間ICT機器を用いて視聴覚教材の提示や意見共有等を行っている成果が表れた。

《課題》

【社3】の項目については、各学年とも他の項目と比べ肯定的意見の数値が低い傾向にある。学習課題への興味・関心を高める工夫が足りないことや、生徒自らが課題を設定する場面が少ないことが要因と考えられる。

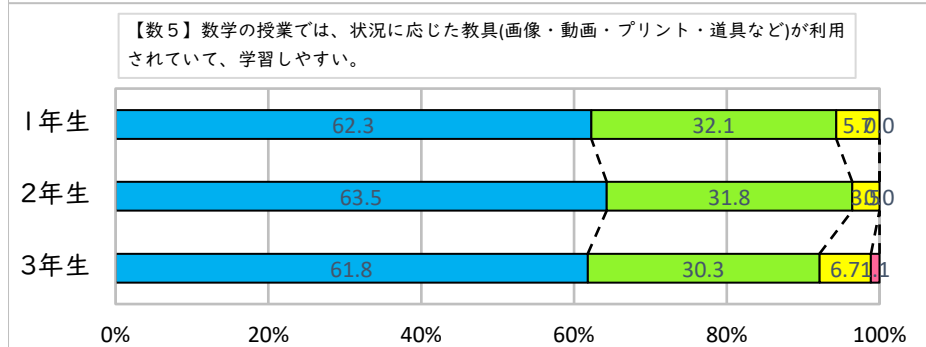
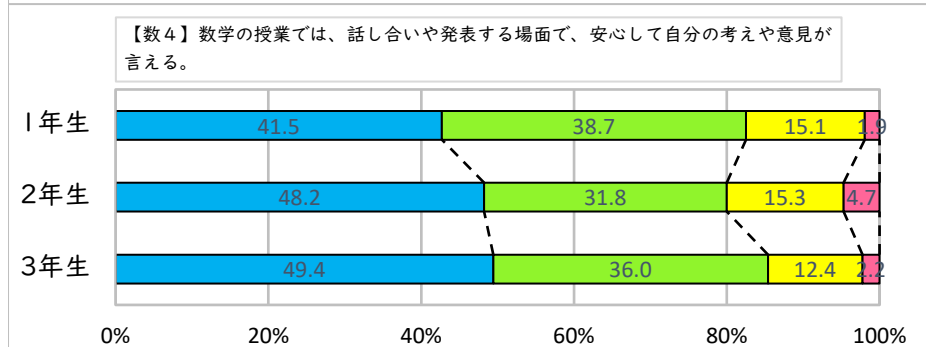
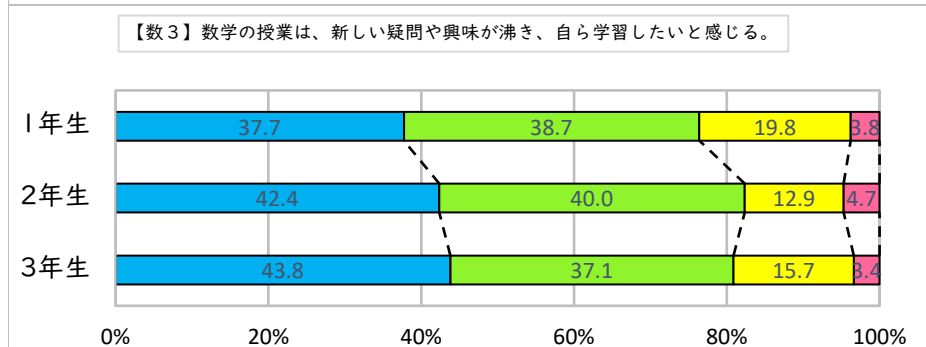
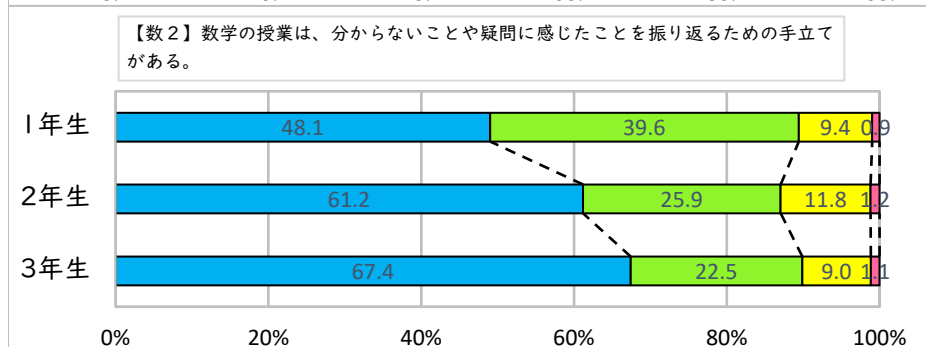
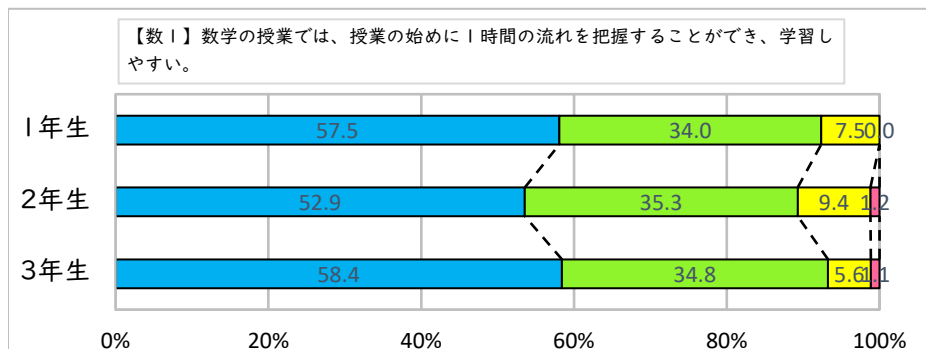
《今後の取組》

引き続きICT機器の活用に関心をもち、導入時の工夫や、「単元見通シート」を効果的に活用することで、学習課題への興味・関心を高め、主体的な学習を促すための工夫を講じていく。

令和 4 年 7 月  
**【生徒授業】学校評価アンケート結果** 《数学》

調布市立第八中学校

1 そう思う 2 ややそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない



《成果》

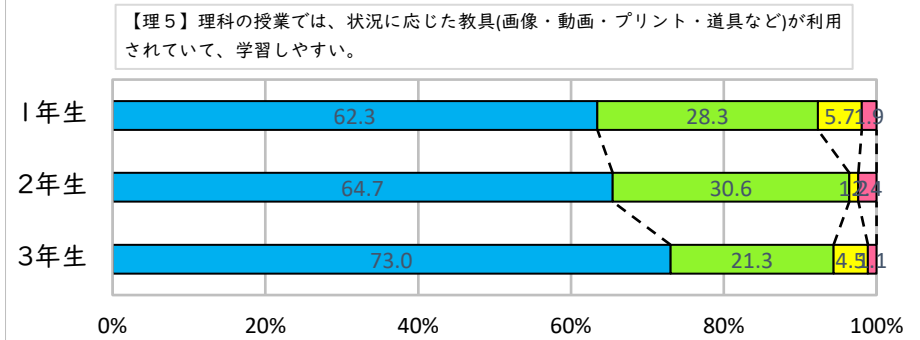
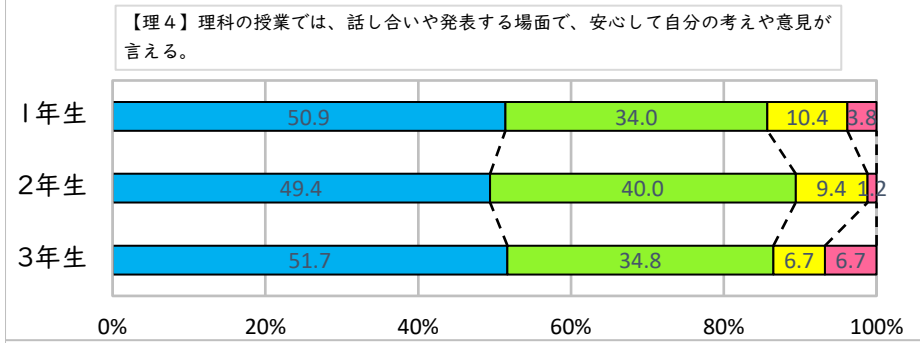
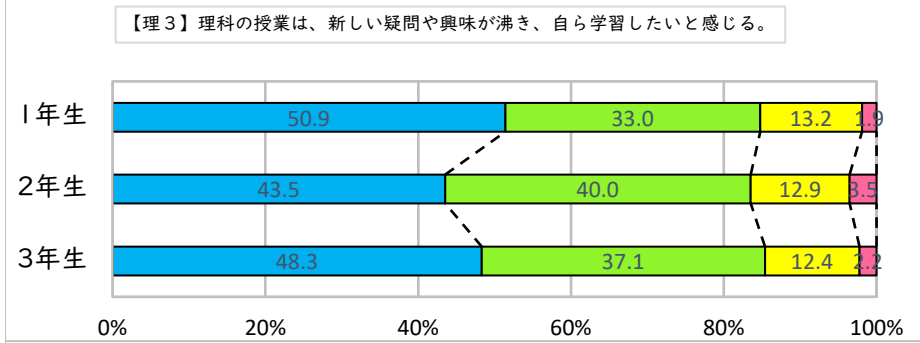
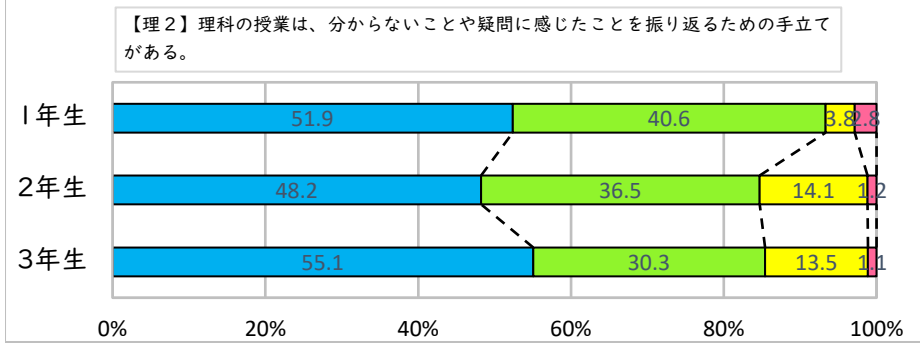
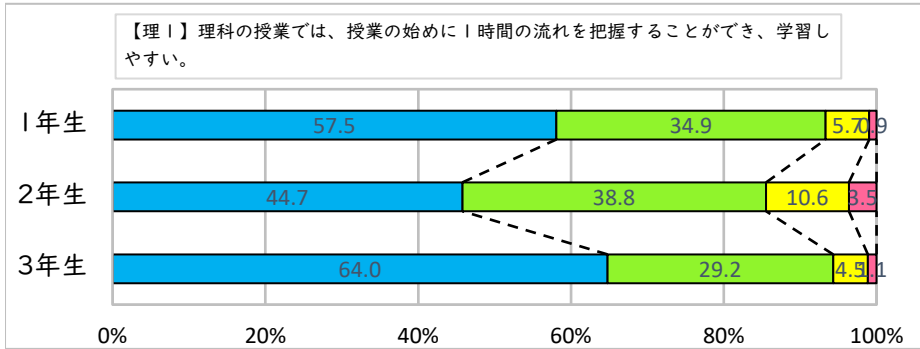
多くの項目において、肯定的な意見が8割以上を超え、日々授業を構造化し、改善を意識している成果があらわれている。習熟度別少人数を活かし、より主体的・意欲的に学ぶことができる授業を創り上げる。

《課題》

【数3】の項目で、「自ら学習したい」背景には、分かることが大切だと考えられる。習熟度の中で「振り返り」等を活用して、生徒の状況を的確に把握し、授業の改善に努め、安心して主体的、意欲的に学べる授業を創りだす。

《今後の取組》

「課題」にも示したように、「主体的な学習」「対話的な課題解決」を取り入れながら、効果的にICTを活用し、生徒にとって一時間一時間がより充実感のある授業にするために日々の授業改善に努めていく。



《成果》

電子教科書の導入により、画像や映像の提示がしやすく、またchromebookを日常的に使用している。そのため【理5】の結果は、各学年の「そう思う」の数値が6割以上となった。

《課題》

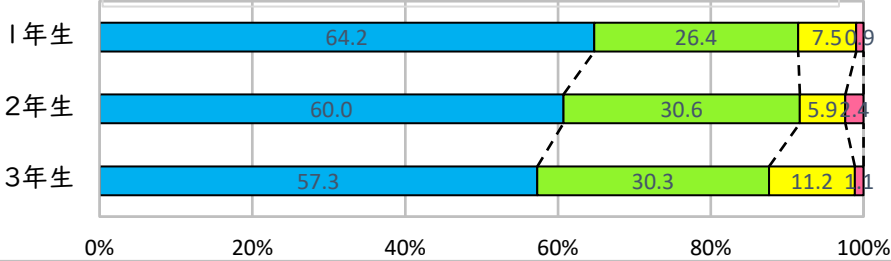
【理3】の結果が他の質問に比べ低い数値となっている。教科書内容から日常生活への繋がりを意識させることがあまりできていないことや、生徒自ら考える課題の設定がうまくできていないためである。

《今後の取組》

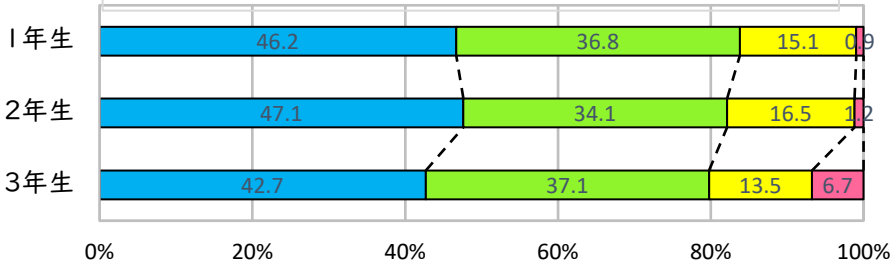
既習内容と日常生活との繋がりを意識させるために、どのようなところで活用されているのかを生徒に考えさせ、そのうえで活用例を紹介していく。



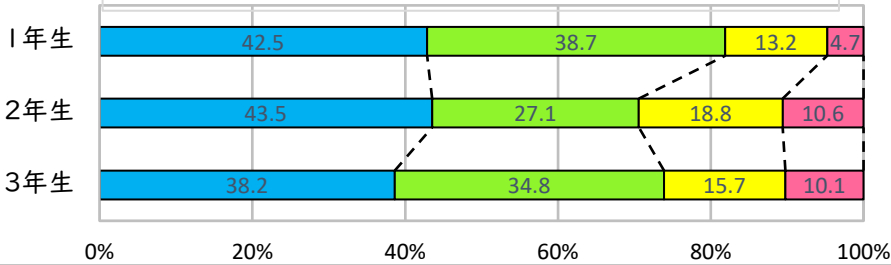
【英1】英語の授業では、授業の始めに1時間の流れを把握することができ、学習しやすい。



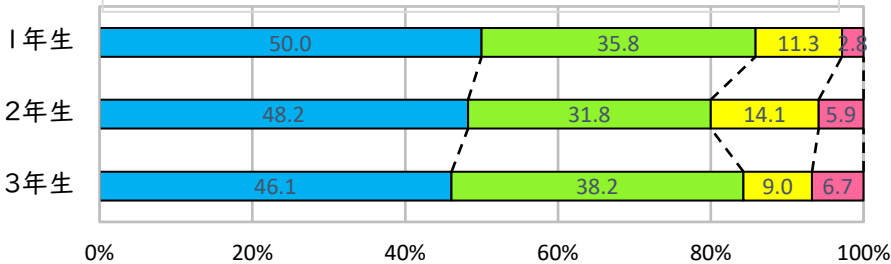
【英2】英語の授業は、分からないことや疑問に感じたことを振り返るための手立てがある。



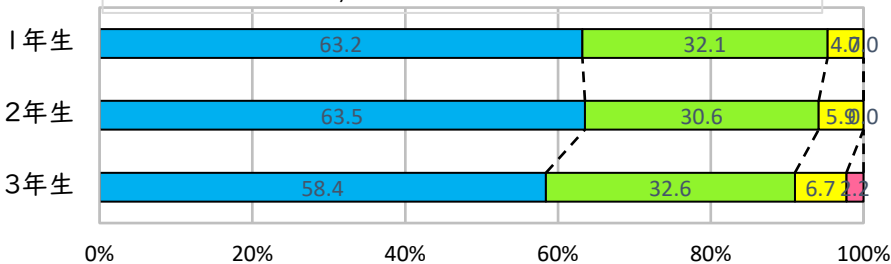
【英3】英語の授業は、新しい疑問や興味が湧き、自ら学習したいと感じる。



【英4】英語の授業では、話し合いや発表する場面で、安心して自分の考えや意見が言える。



【英5】英語の授業では、状況に応じた教具(画像・動画・プリント・道具など)が利用されていて、学習しやすい。



《成果》

全体的に肯定的な回答が多い。

【英5】では「そう思う」「ややそう思う」が90%を超えている。Chromebookを用いた活動やデジタル教科書、動画教材など様々な教具を用いた授業の成果である。

《課題》

【英3】では「そう思う」「ややそう思う」の割合が他の項目と比べると少なくなっている。今後は、場面や題材設定を工夫する。より生徒にとって身近な話題や場面における状況設定を行うことで、生徒の興味関心を引き出す。

《今後の取組》

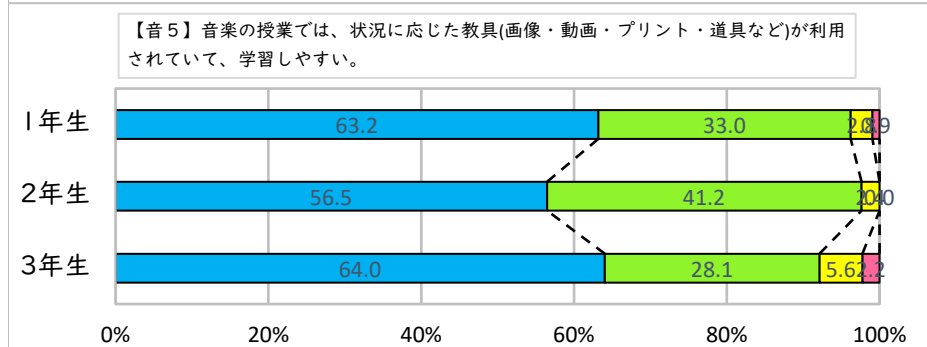
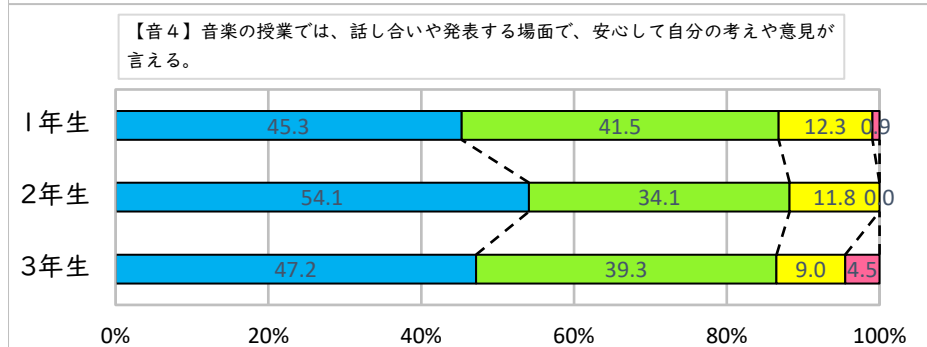
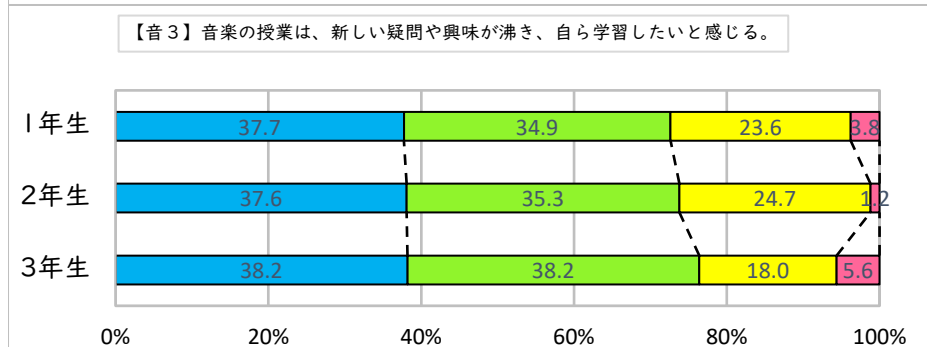
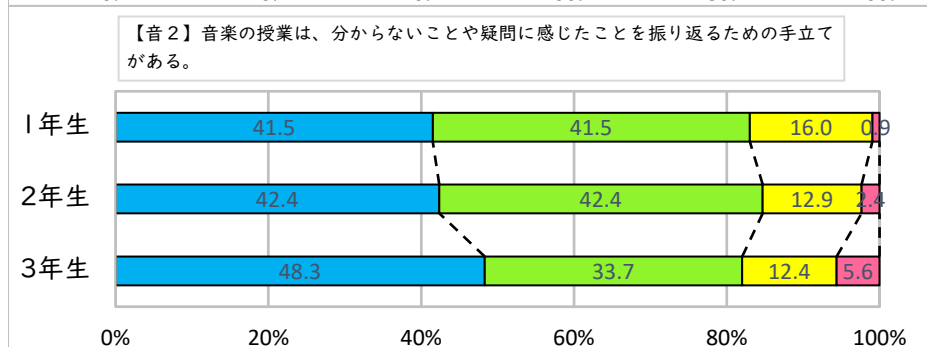
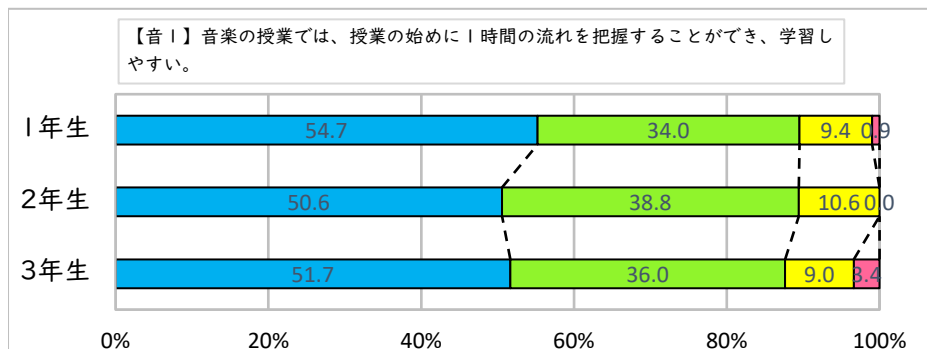
様々な教具をより効果的に用いて、ペアやグループなど様々な活動形態を多く取り入れていく。それを通して、多くの人の意見に触れ、認め合いながら、英語で表現する機会を増やしていく。

1 そう思う

2 ややそう思う

3 どちらでもない

4 そう思わない



《成果》

全体的に肯定的な意見が8割以上を超えている。これは、毎時間の目標や授業の流れの提示を行う等の授業改善によって、学習に取り組みやすくなってきたことが表れている。

《課題》

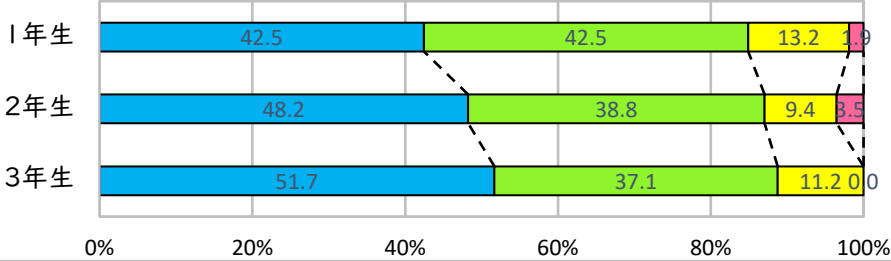
【音3】の項目では、他の項目より否定的な意見が多い。学習課題への興味・関心を高める工夫や学習内容と日々の生活の結びつきについて考える機会が足りていないためであると考える。

《今後の取組》

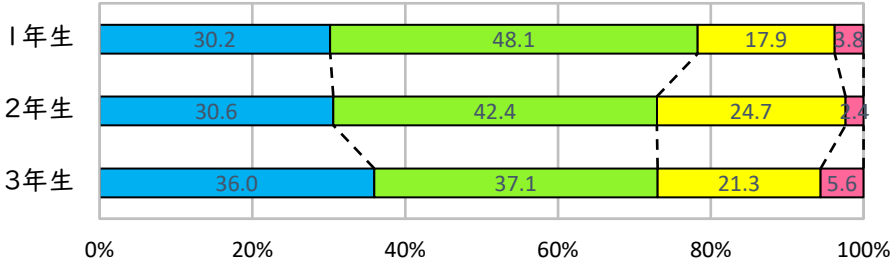
学習内容と日々の生活の結びつきについて考える機会を設け、プリントやICT機器によってより分かりやすい授業を行うことで、学習課題へ興味・関心を高めていけるよう、授業改善に努めていく。



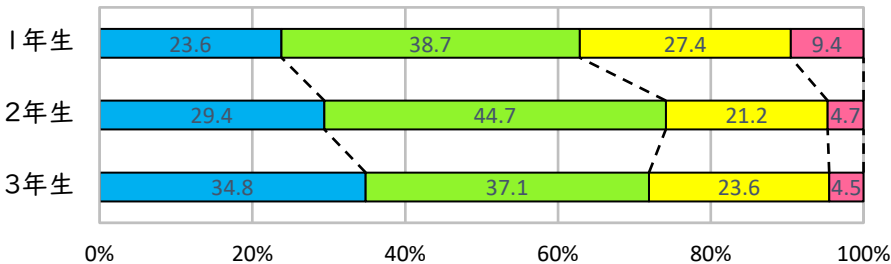
【技1】技術の授業では、授業の始めに1時間の流れを把握することができ、学習しやすい。



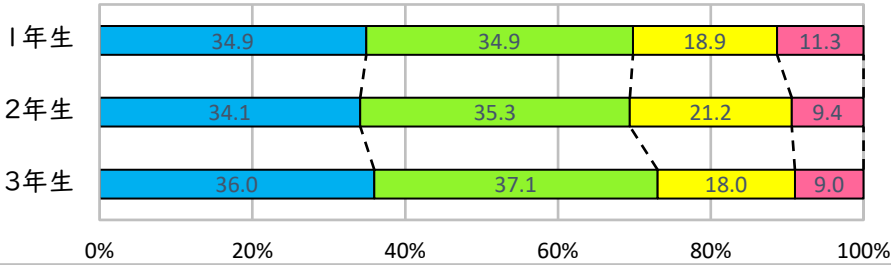
【技2】技術の授業は、分からないことや疑問に感じたことを振り返るための手立てがある。



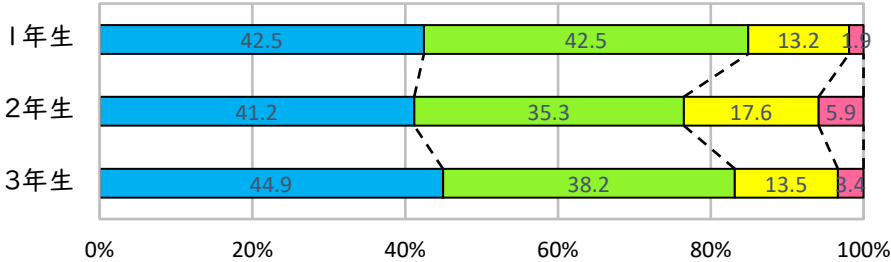
【技3】技術の授業は、新しい疑問や興味が沸き、自ら学習したいと感じる。



【技4】技術の授業では、話し合いや発表する場面で、安心して自分の考えや意見が言える。



【技5】技術の授業では、状況に応じた教具(画像・動画・プリント・道具など)が利用されていて、学習しやすい。



《成果》

【技1】では、特に導入時に時間をかけて確認作業をとり入れたことが結果に表れている。

《課題》

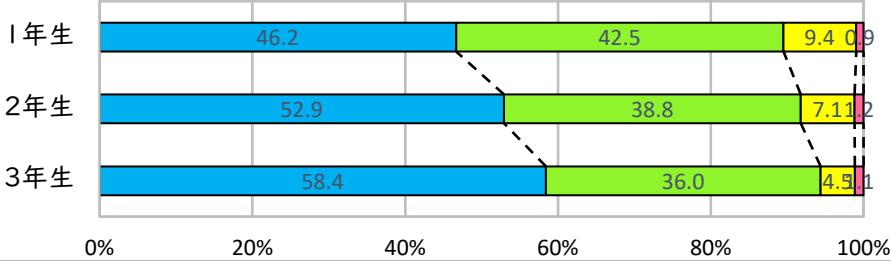
【技1】で取り組んでいる導入時に時間を使うため実習の時間が不足気味になり、やや急いでしまう授業になっていることから、振り返りの時間設定に課題がある。

《今後の取組》

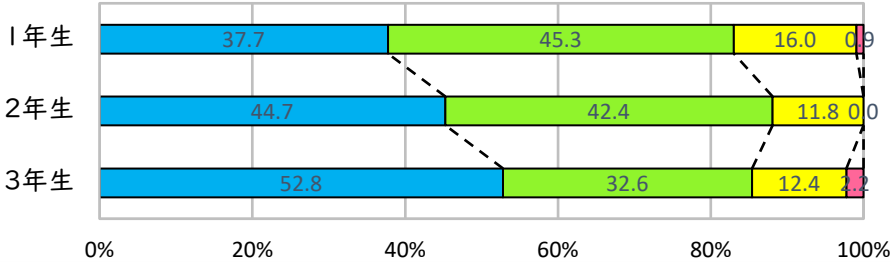
今後も導入時に確認作業を進めていく必要があるが、時間の使い方を工夫して振り返りの時間をしっかり確保する。



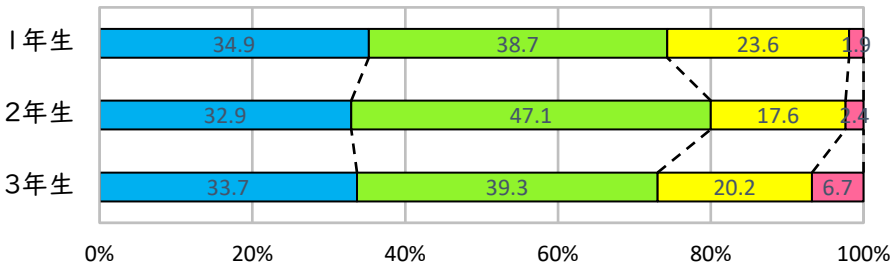
【家1】家庭科の授業では、授業の始めに1時間の流れを把握することができ、学習しやすい。



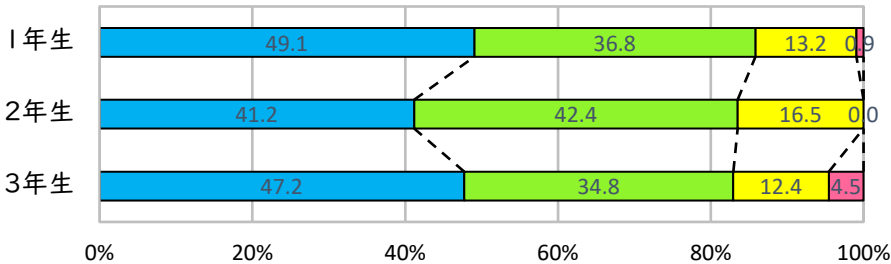
【家2】家庭科の授業は、分からないことや疑問に感じたことを振り返るための手立てがある。



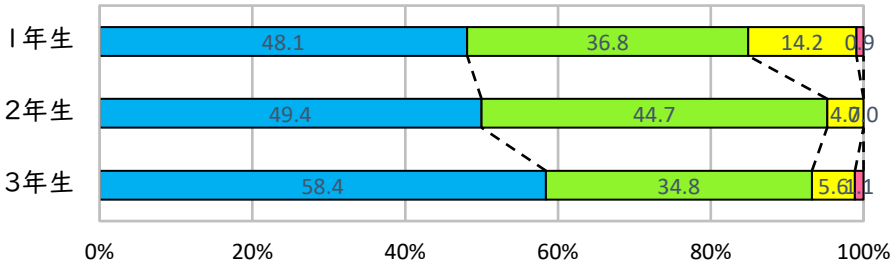
【家3】家庭科の授業は、新しい疑問や興味が湧き、自ら学習したいと感じる。



【家4】家庭科の授業では、話し合いや発表する場で、安心して自分の考えや意見が言える。



【家5】家庭科の授業では、状況に応じた教具(画像・動画・プリント・道具など)が利用されていて、学習しやすい。



《成果》

【家1】では毎時間のめあてを確認し、授業に臨むことを心がけてきたので、1時間の流れを確認しながら、授業に取り組む姿勢が見られた。

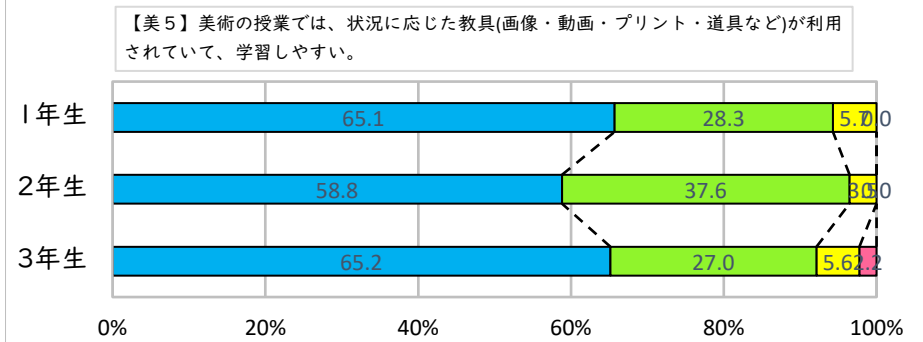
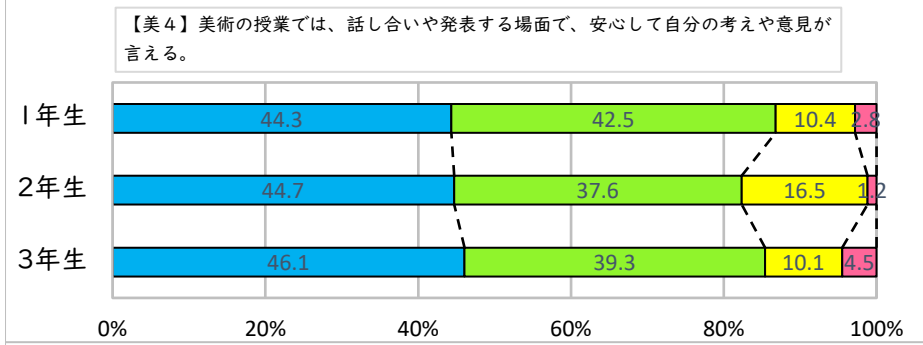
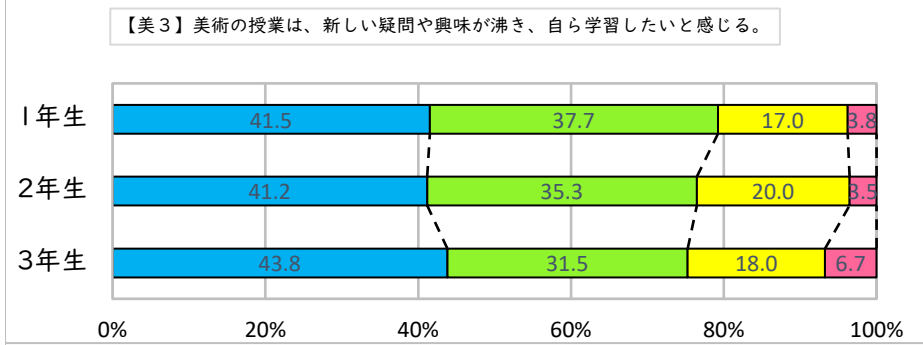
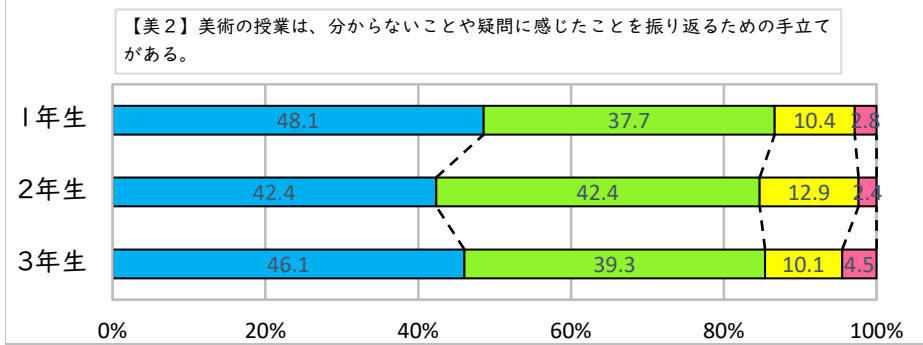
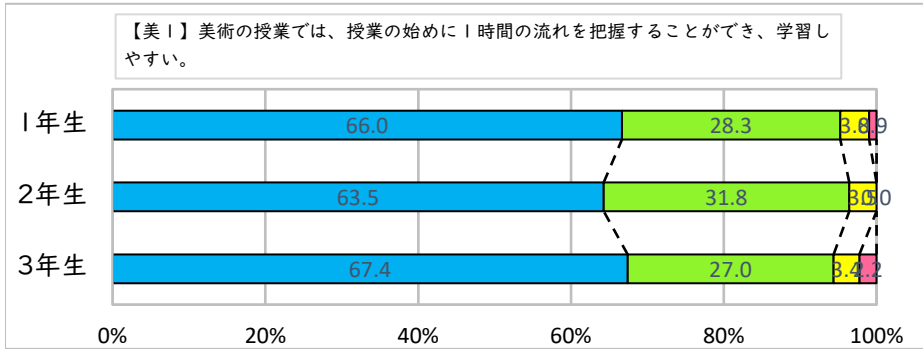
《課題》

【家3】において、主体的に取り組む姿勢が低い生徒が20～25%とみられたので、更に興味・関心がもてる教材研究を進めていく。

《今後の取組》

実生活にしっかりと活かしていけるように、学んでいることと家庭や地域でのつながりを意識させていく。また授業の流れを工夫し、振り返りの時間をしっかり確保していく。





《成果》

【美1】【美5】で、研修で学んだ「授業全体の流れ」を、ICTやプリントなど複数の方法で掲示し、心理的安全性を確保した。また、認知特性の観点から、視覚・聴覚・文字の3点にアプローチした授業をデザインした成果を感じた。

《課題》

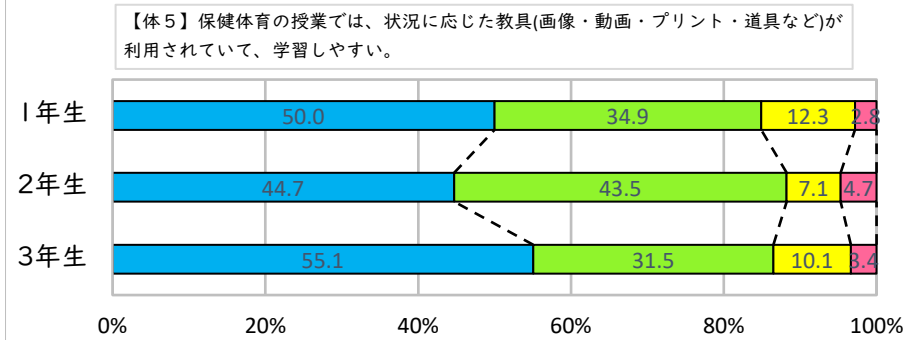
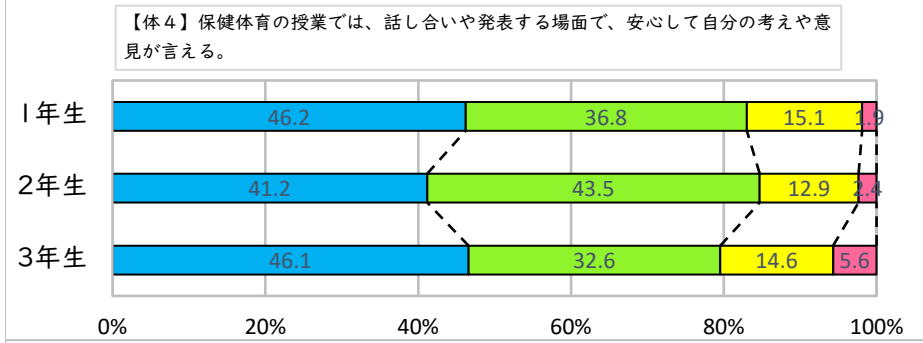
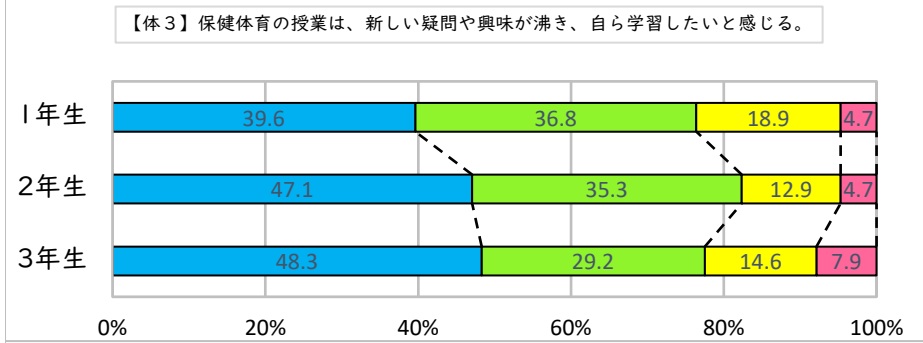
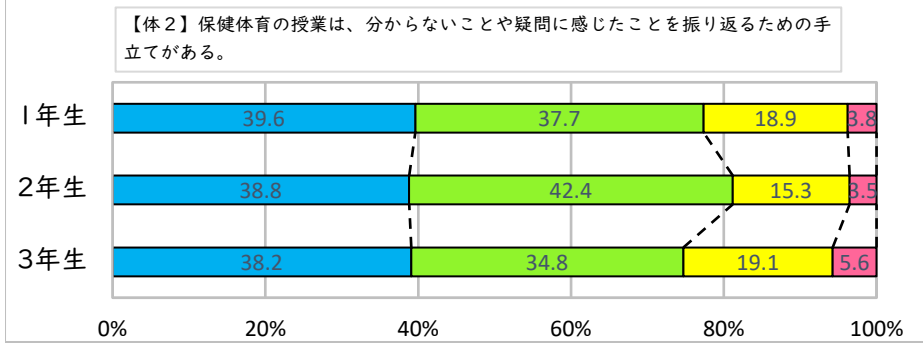
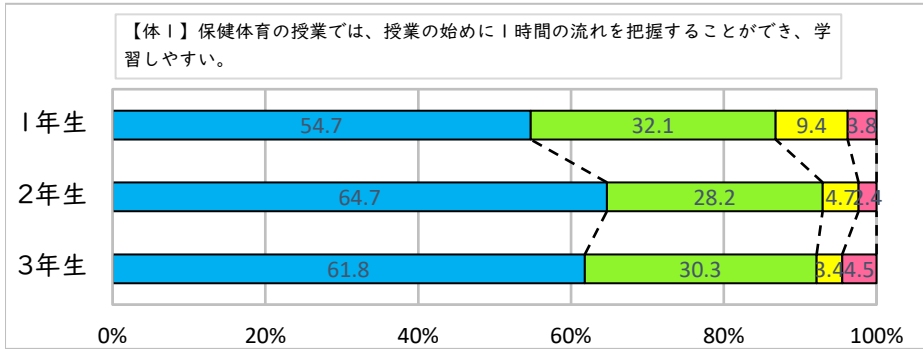
【美3】で、主体的に学習に取り組む項目に関して肯定的な意見が75%前後であった。生徒の興味をより引き出す教材研究を進めていく。

《今後の取組》

【美1・5】では、現状の取り組みは十分に機能しているので、維持していく。

【美2・4】では、有効なICTの活用方法を探っていく。

【美3】では、さらに生徒の興味を引く方策を練っていく。



《成果》

多くの項目において、肯定的な意見が8割以上を超えている。毎時間のめあてを提示することや、導入をさらに工夫し、より主体的に学ぶことができる授業を築いていく。

《課題》

【体2】では、「そう思う」「ややそう思う」の割合が他の項目と比べると少なくなっている。活動時間を確保するために今後はさらに学習カードを活用し、教員からのアドバイス等を記入したり、生徒同士で教え合ったりしながら、振り返りの時間を確保する。

《今後の取組》

実技の授業においてもICTの有効な活用を探りながら、生徒自身が自分の課題を見つけ意欲的に取り組める環境を整えていく。